

2017 年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価 Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

（進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。）

2016 年度大学評価（認証評価）結果指摘事項

<概評>

「学生による授業評価アンケート」の回答は学習成果を測定する指標として十分とはいえないが、「卒業生アンケート」の学習成果に関する設問は指標としては適切であるといえる

学習成果の指標の開発については、ポートフォリオ、ルーブリック等の開発が必要であり、「全学教務委員会」においてその制度設計を行うとしているので、今後の検討に期待したい。

2016 年度外部評価委員会指摘事項

なし

前年度からの課題（2016 年度点検・評価シート IV 次年度への課題 より転記）

スポーツ科学科において保健体育教職課程履修者ならびに教員採用試験受験希望者に対する、教員採用試験にむけての学習内容および自己評価リストを作成する。学科にて課外授業の形態で実施している教員採用にむけての勉強会にて、このリストを学生に示し、学習計画の立案および自己評価・行程管理するよう指導し、教員がそれに対する助言等により関わる。

健康科学科においては、学科内に設けている国家試験対策小委員会の分析をもとに、合格率向上に向けたさらなる検討を行う。

Ⅰ 評価項目・担当部局

対象部局	スポーツ・健康科学部
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-4	成果 【自己評 A】
点検・評価項目(1)	4-4-1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用
点検・評価項目(2)	4-4-2 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準、学位授与手続きの適切性

Ⅱ 点検・評価 対象期間は 2016 年 4 月～2017 年 5 月までとする。（教員数、学生数などのデータの基準日は 2017 年 5 月 1 日）

【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-4-1	スポーツ・健康科学部として学生の学習成果を測定するための評価指標は設けていない。 2016 年度の学生による授業評価アンケートでは、「Q17.この授業をとおして、自分にとって新しい考え方や発想が身につきましたか。」「Q18.この授業で教わったことの中で面白い、興味深と感じたことはありましたか。」「Q19.この授業をとおして、自分で調べ、考える姿勢が身につきましたか。」「Q20.この授業を総合的にみて、満足できましたか。」の 4 つの設問で、「非常にそう思う（肯定的）」「そう思う（やや肯定的）」の肯定的な自己評価をしたのは、全学年平均で、Q17.が 58.3%、Q18.が 61.5%、Q19.が 56.7%、Q20.が 68.3%である（B4-4-1、B4-4-29 d2-表 25～表 28）。これらに対して、2015 年度の結果は Q17：60.2%、Q18：63.8%、Q19：66.4%、Q20：63.8%、2014 年度については、Q17：59.3%、Q18：62.3%、Q19：54.3%、Q20：63.1%であった。 2016 年度の卒業生アンケートでは、「Q2.所属学部・学科についての専門的知識が身に付いたと思いますか?」「Q4.大学 4 年間で自分の目標を達成できましたか?」「Q5.社会を生き抜く力（マナー、自己管理能力、コミュニケーション能力、問題解決力など）が身に付いたと思いますか?が身に付いたと思いますか?」について、スポーツ・健康科学部平均で、「そう思う（肯定）」「少し思う（弱肯定）」が、Q2.は 91.8%、Q4.は 82.5%、Q5.は 88.3%である（B4-4-2、B4-4-29 d2-表 29～表 31）。これらに対して、2015 年度の結果は Q2：92.9%、Q4：81.0%、Q5：85.2%、2014 年度については、Q2：96.0%、Q4：81.5%、Q5：84.9%であった。以上のアンケート結果は過去 2 年分の結果と照らし合わせて、大きく変化している様子は見受けられない。今後の学習内容・方法・成果に関しての検討材料のひとつとしていきたいと考える。 スポーツ科学科では、学習成果を確認する方法の一つとして、3 年次に進級するための進級要件を 44 単位以上の修得と定めている(A4-4-1 第 23 条の 27 第 2 項)。また、学科主任、教務委員会ならびに学年担任が各学期末および年度末に学生の単位取得状況を把握している。本学科の「教育研究上の目的」に照らせば、56.4%の 4 年生が教育実習に参加し、70.9%の 4 年生が卒業論文に取り組み、73%の 3 年生がゼミを履修していることは、学科の教育目標に沿った成果と言える(A4-4-1 第 2 条の 2 第 8 号)。専門的な学びの取り組みとして、ゼミナール履修者（卒業論文への取り組み）を見た場合、2016 年度卒業生では 78 名が、卒業論文を提出している（B4-4-16）。 健康科学科では、3 年次に進級するための進級要件を 44 単位以上と定めている。また、3 年次の臨地実習の単位取得ルール（筆記試験および面接試験）を厳格に運用し、学生個々に相応しい進路指導を徹底している。とりわけ臨床検査技師の合格率は近年の全国の合格率と同様に推移し、2016 年度は 72.7%と前年度に比べて 6%向上し、全国合格率 78.7%に近似している(B4-4-17)。
-------	--

	臨床検査技師以外の進路指導についても、3 年次より食品衛生管理等の国家資格に基づく健康科学分野や一般職など、キャリアセンターとの連携の下に個々の学生に対応したキャリア指導を行っている。 スポーツ・健康科学部の 2016 年度の 2 年から 3 年へ進級率は 98.2%、卒業率は 95%、卒業者の就職決定率は 95.5%(就職希望者に対する就職者の比率)、卒業生に対する就職者比率は 81%である (B4-4-29 d2-表 11、表 13、表 14)。
4-4-1	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用について【○】 具体的事例： 「学生の学習成果を測定するための評価指標の開発」への取り組みとして、各学科は以下のように取り組んでいる。 スポーツ科学科は、昨年度「教員採用試験にむけての学習内容および自己評価リスト」作成に着手した。これについて、評価内容・基準について精査し、リストの完成を目指す。 健康科学科は、学科内に設けている国家試験対策小委員会を中心として、昨年度の合格率の低下の原因を分析し、合格率向上に向けた具体的取り組みを検討し、改善を目指す。
4-4-2	学則（卒業要件）の定めにより、両学科とも、4 年間の修業年限を満たし、所定の 124 単位を修得した者に卒業が認定される。卒業要件はスポーツ・健康科学部履修の手引き『羅針盤』で明示し、ガイダンスに持参させて説明し周知を図っている(A4-4-10 p.28、B4-4-27)。学位授与は、学則の定めに従い、学部教授会において、成績・判定資料により決定しており、適切に行われている。
4-4-2	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 学位授与基準、学位授与手続きの適切性について【×】 具体的事例：

【効果が上がっている事項】

4-4-1	
4-4-2	

【改善すべき事項】

4-4-1	学部としての学生個々の学習成果を測定する評価指標について検討を始めることが必要である。 また、健康科学科では、臨床検査技師資格取得希望者における不得意科目の対策として、国家試験出題基準に基づいた指標を科目ごとに検討する。
4-4-2	

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	4-4-1 学生が自身の学習到達目標への達成度を確認できるシステムを開発する。	学習到達度管理システムの開発			A	A	
16 年度 目標	4-4-1 学習成果の評価指標について明らかにすると共に、測定内容・方法についての検討を始める。 また、臨床検査技師免許所得希望者について、毎回、個々に作成・配布された正誤データについての活用方法を検討する。	学部教授会への関連委員会からの検討報告 正誤データの活用法の立案			A		
17 年度 目標	4-1-1 スポーツ科学科では、「教員採用試験にむけての学習内容および自己評価リスト」が未完成であるので、評価内容・基準の確立を目指す。 4-1-1 健康科学科では、臨床検査技師資格取得希望者に対して、国家試験出題基準に基づいた科目ごとの	教授会での当該リストの公表 教授会での当該指標の公表				A	
						S	

	指標による学生指導について検討する。また、それ以外の学生については、食品衛生関連資格等に関連した健康科学分野でのキャリア支援として、インターンシップ等の導入も検討する。								
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

IV 評価専門委員会所見

全体としての所見 学科ごとの取組と問題点を明らかにしている点で高く評価できます。 4-4-1 【現状】 ・学生の学習成果を測定するための評価指標が開発されている点は高く評価できます。

V 所見への対応

--

VI 次年度への課題

中期目標として「4-4-1 学生が自身の学習到達目標への達成度を確認できるシステムを開発する。」を掲げ、その目標達成の指標として「学習到達度管理システムの開発」をあげているが、現状では、保健体育教員や臨床検査技師といった資格関連に特化した対象についての取り組みとなっている。来年度よりアセスメントテスト（PROG）が実施されることより、「学習到達目標への達成度を確認できるシステムの開発」といった目標設定を、「学生が自身の学習到達目標への達成度を確認できるしくみの構築にむけて、アセスメントテスト結果について学科独自の活用方法を検討する」に修正したい。

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A4-4-1	大東文化大学学則 《既出》A1-1
A4-4-2	大東文化大学学位規則
A4-4-10	スポーツ・健康科学部 羅針盤（履修の手引き）2017 《既出》A1-14
B4-4-1	学生による授業評価アンケートと大学教育 2016年度 《既出》B3-12
B4-4-2	FD 報告書 卒業生アンケート 2016年度 《既出》B4-3-27
B4-4-3	学生生活調査（アンケート） 《既出》B1-7
B4-4-16	スポーツ・健康科学会 学会誌 Vol.10
B4-4-21	授業評価結果に対する教員コメントの抜粋（授業改善の例として）
B4-4-27	2017年度ガイダンス日程表（学部・研究科）
B4-4-29	大学データ集 《既出》B1-22
〔追加資料〕	